

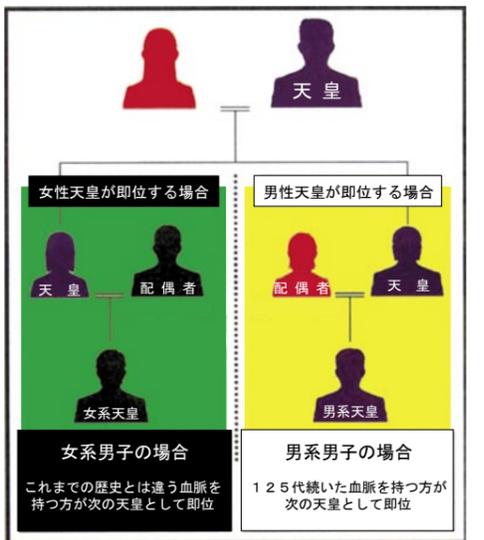
皇統の重み

皇室典範改定の論議が巻き起こりました。そして、その論点は皆様もご承知の通り女系の天皇を認めるか否かという点でした。この議論は、この日本という美しい国の根幹を揺るがす大変重要な問題であるにも拘わらず、小泉首相の私的諮問機関である有識者会議において約三十分間程度の会議で、女系天皇を容認するという結論が出されました。

女性・天皇は歴史上、十代八方(天皇は一人ではなく一方と数える)おられました。しかし、その全ては次の代に男系の男子を天皇として擁立しています。つまり、女性天皇とは男系男子を擁立するまでの代理的存在だったのです。これは男系継承の為の措置と言え、歴史上女系天皇は存在しません。

さて、ここでも一度天皇の歴史を考えますと、その歴史は神話の時代まで遡ります。そして、日本創世の頃から現在に至るまで、約二千六百年間男系により続いているのです。これはこの広い世界で唯一無二の存在です。

世界中に様々な文化や伝統があり、そのいずれもが大切な世界の宝といえますが、日本の天皇もそのかけがえのない世界の宝の一つです。天皇は建国以来



女系天皇導入で、変わる皇室の歴史と伝統

ないのです。最新の技術と最新の資料を使って改修すれば、より強固な建造物が出来るかもしれません。木造でなくなった時点で、法隆寺は法隆寺で無くなります。また、流鏝馬もそうです。速くて安定したオートバイに跨って、弓を放てば射やすいでしょうが、それは流鏝馬ではありません。いつの時代になっても、馬に跨り和弓を引くという伝統こそが流鏝馬なのです。

現在、日本は男女平等・同権で、世界的にも男女平等や同権の観点から女王や女性の首相などを擁立する動きが盛んです。しかし、その様な政治的風潮とは別次元の問題として考えなくては成らない事、守らなくては成らない事はあります。そして、天皇とはその最たるものです。繰り返しますが、天皇は唯一無二の存在であって、政治的なブームでこの伝統的形態を破壊してはなりません。

また、難しい問題ではありますが、男系継承によりこの皇統を維持継承する方法はまだいくつかあると言われています。その方法を実現に向け模索する事こそが我々にとっても、世界にとっても重要な課題なのではないでしょうか。

編集後記
 昨年下鴨神社にて開催致しました例会に沢山のご応募を戴きありがとうございました。観覧席の制限上、都合先着順と致しました。ご参加頂けなかった方には大変申し訳ありませんでした。今後とも魅力的な例会を開催していきたいと存じておりますので宜しくお願い致します。

さて、この度ご寄稿頂いた高林様には、本当に多忙極める流鏝馬当日に、講師として講演を無理にお願いしましたところ、「皆様は流鏝馬と小笠原流弓馬術に対する理解を深めて頂けるのなら喜んで」と、快く了承して下さいました。流鏝馬に対する真剣さとそれに携わる責任感、或いは使命感といったものを感じ、ただ頭が下がる思いでした。また、一つも傲りや威張った態度が無く、終始穏やかな口調と物腰に、修練をねてきた方の余裕と「強さ」のような物を感じずにはいられないのでした……。

最後に、次期例会を目下計画中です。皆様にご案内申し上げますので今暫くお待ち下さい。(三)

京都の躰を語る女性の会会報

おはようさん

第 15 号

わたしたちは躰というさか古びた言葉を持ち出し伝統と文化の町京都において今も息づく「躰」や「訓文」に学び語りながら新しい子育て文化を提唱します

京都の躰を語る女性の会
 〒 616-0022
 京都市西京区嵐山朝月町 68-8
 京都府神社会館内
 tel 075-863-6677
 fax 075-863-6664
 http://www.net-k.co.jp/situke

日本の伝統継承 下鴨神社 流鏝馬神事

私は、父が創業いたしました印刷・出版の仕事に従事しております、ものごとを書き残す事は文化継承の根本作業のひとつであるとおねづね考えています。そこで今回は、流鏝馬と記録について少しお話しさせていただきます。

申し上げますまでもなく、神道の世界では、言葉が非常に大切にされています。神職が発せられる祝詞(のりと)や祝詞はきちんと書きとめられてあります。また、私が話題提供させていただいた流鏝馬が、時代に合わせいくらかの変遷を見つつも、現代において執行できますのも、記録が残っているという事実を負うところが大変大きいのです。

は、いろんな事例が観察されます。私たちが感じる音、味、動き。また、印象や思いといったものも形をとどめることはできません。そしてこれらに対応する記録として、作法または決まりに従って書きまとめられたものとなって、楽譜、茶会記、型付(か



小笠原流弓馬術の所作に数千人が静まりかえる

たつけー舞のはこびをかきとめたもの、和歌という伝統的物があり、私たちはそれらのたすけを得て、消え行くものを繰り返し味わい、またなぞることが可能になります。

さてそれでは、五月三日に盛大に催行される「下鴨神社流鏝馬神事」

については、その記録はどのようになっているのでしょうか。

この流鏝馬神事は、西暦七九四年の平安遷都の時には行われていたのでしょうか。何月何日の何時から何時までおこなわれ、延べ何騎の馬が駆け、どういう名前・役の方が勤められたのが記録によって明らかになっていたら、非常に興味深いことでしょう。残念ながらその当時の記録は報告されていませんので、うかがい知ることはできません。

しかし、この時期を百年ほどさかのぼる文武天皇二年(西暦六九八年)に「賀茂祭の日に民衆を集めて騎射を禁す」というお触れが出されていることが、『続日本紀』という歴史書に記載されていることがわかっています。

これは、非常にシンプルな一行です。私たちは歴史上のさまざまなお触れや背景を勘案しつつ、じっさい

いのような事は想像してしのぶばかりありません。それでもこの事実が、千三百年たった今も毎年奉納を続ける私も射手にとって、どれほどの励ましになっていることでしょうか。

流鏝馬をご覧いただいた方にはおわりの通り、この行事は多くの方が参加する、かなり大掛かりなものです。鎌倉時代以降、武家の晴れの儀式として細かく整備され、江戸中期以降は幕府の公式行事としても盛んに行われました。私が所属している小笠原流は、武家の礼儀作法で知られた家(流儀)ですが、もともと源頼朝の弓馬師範として流鏝馬などをつかさどり、以後八百年にわたってこの文化を継承してきた家です。

武家の技芸の代表的なものの一つである流鏝馬も、もともと京都の朝廷で行われていた節会を基にしています。(2面へ続く)

現在日本の各地で行われている武家由来の流鏑馬は多くあっても、朝廷の儀式としての様式を伝えるのは、この下鴨神社の流鏑馬だけなので、この複雑ともいえる、格調の高い儀式を滞りなく進め、伝えていくために手がかりとなっていて、記録が記録です。

かつての朝廷では、本番の儀式の前日に、手順を確認するためにまったく同じことが行われていました。これを「あらてつがい」「本番を「まてつがい」とよんでいました。どうしてわざわざそんなことをしたのでしようか。こうした疑問も、記録があればこそ起こることで、その理由を考えることで、日本文化の深層をたどることも可能でしょう。

現在、私どもが奉納する流鏑馬で作成する記録は「日記」です。これには、場所、日時、奉納参列者役のあるすべての人の名前、射手的中、という事項が、二つ折りにした奉書の片面に筆書きされ、何枚かになったものに表紙を付けて、麻綴(晒した麻)で閉じます。

日記をつける祐筆や、それを監督する日記役、日記を入れる覧箱を持つ役なども参列して、機があらばそういった諸役の人にもぜひご注目ください。流鏑馬は、全速力で駆ける馬の上



その大迫力に誰もが驚嘆する

で弓を引く、ほとんどアクロバティックな世界に見えるかも知れませんが、儀式化されたことによって技術が伝承されていくことと信じております。

PROFILE



■高林素樹(たかばやしとくま)昭和三十六年京都市生まれ。(有)紀書房企画部長。弓馬術礼法小笠原教場直門。幼少期は下鴨神社ボーイスカウトとして活動。富士スカウト章受章。ボーイスカウト日本連盟特別海外派遣に選抜され北欧三ヶ国を単独訪問。国際キャンプスタッフとして米国派遣。賀茂祭走馬之儀奉仕会立上げに参加。英国で開催された二〇〇一年JAPANオープニングでは、日英両国皇太子殿下台覧の流鏑馬奉納に際し、一行の総マネージャーを務める。

おしらせ

「おがたまの木コンサート」のご案内

京都の駈を語る女性の会主催による「おがたまの木コンサート」を開催致します。本イベントは二部構成になっており、第一部では、NPO法人地域予防医学推進協会を設立された医学博士の山本理江先生を講師としてお迎えしてお話を伺います。

山本先生は実際の医療活動を通して、「生活習慣病予防は子供の時から始めなければ遅い」という結論に達し、この度はそれらの経験から今話題の食育や睡眠、生活リズムなど健康な子育てについてのお話を頂くこととなっております。

また、第二部では第一部とは趣向を変えて、ポルトガルギターとマンダリン演奏で有名なアコースティックデュオ「マリオネット」さんをお迎えし、コンサートを開催致します。



日本で唯一の本格派ポルトガルギターの奏者として有名な湯淺隆氏

と、マンダリン奏者として名高い吉田剛士氏等の演奏には、誰もが惹きつけられることでしょう。また、TVのテーマ曲やCMの音楽など様々な活躍されており、きつと聞き覚えのある曲に出会えるはず。毎年遠方からも多くのファンが駆けつける程の人気です。この機会にマリオネットの音楽にも耳をお傾け下さい。講演会とコンサートによる価値ある一日。

皆様にお楽しみ戴ければ幸いです。皆様のみなならず、お知り合いの方などにもお声がけ戴きまして、たくさんのご来場をお待ちしております。

日時・平成十八年七月九日(日) 開 場 午後一時半 講演 会 午後二時 コンサート 午後三時半 終 了 午後四時半 場 所・京都文化博物館別館ホール 京都市中京区三条高倉 入場料・二千円

コンサートに関するお申し込み・お問い合わせは 京都の駈を語る女性の会事務局まで Tel 075-863-6677(京都府神社会館内)

子どもの自殺と親の駈

三月十六日、北九州市で起こった小学生自殺事件覚えておられるだろうか。小学五年生の男児が教室で振り回していた紙の棒が同級生の女児に当たったことで、担任の女性教師に叱られた。この男児はその直後教室を飛び出し、家人が留守であった自宅に帰り、自室で首を吊って自殺したという極めて不幸な事件である。

この件に関し、十九日夜男児の叔母が、葬儀の後に地元で記者会見を開いた。叔母は「一部報道で間違った情報が流れ、はっきりと説明すべきだと思った」と会見した理由を述べ、「学校側の説明は、担任が注意した際に『男児の襟元をつかんでゆすった』としているが、目撃した子どもたちは『襟元をつかみ、持ち上げた』と話している。暴力行為があったと感じている」と主張。また「児童が学校を飛び出していったのに、放置して何の連絡もしなかったことも問題」と述べ、学校側の責任を追求する構えを見せていた。現に学校側は当初「指導に問題は無かった」とコメントしていたが、後にこ

の教師の行動について家族に謝罪をしている。また、後日某週刊誌はこの教師の普段の指導態度について取材し、非難する記事の特集した。これについて、皆さんはどう思われるだろうか。いろいろな見方、考え方があろうが、この事件(というか、事故とすべきか)の根本的な原因は、偏に親のこの子に対する駈に問題があったのではないかと思われるのではない。

教室内で危険な行為をし他人に迷惑をかけ、その結果教師に叱られることだけを論い、また教師の暴力行為と言っても顔を殴られたわけでもない、暴力と言えらるかどうかからしないような行為をとらまえて、否、仮に暴力行為があり不適切と指摘されるような指導であったとしても、軽率にもその腹いせのようにして自ら命を絶った我が子の行為は棚上げし、学校側の過失を訴えるなどという悲しみの極地にある場合にあっても、軽々しく言うことではな



いと感するのである。(ただし、報道の範囲では、この男児と教師との出来なかつたし、その後和解があつたのかどうかまでは確認できていない) いずれにせよ、教室で暴れた他人に迷惑をかけたことを注意したこと、その子どもが自殺してしまったような教育現場で、世の先生達はどう子ども達と接していけばいいのだろうか。教師もまた、子ども達の親に育てられるものではないのか。子ども達を叱責すれば親の抗議に怯え、逆に甘くすれば子ども達になめられる。そんなジレンマの中、子どもが自殺することまで予見して正常な指導が出来るのだろうか。私は決して教師に与する側の立場を取る者ではないが、殊この事に関しては、こんなことで簡単に自殺してしまう、そんな子どもに育ててしまった親の責任の方が、遙かに重いと思うのである。また、この様な事件を好奇的視点でしか報道しないマスコミの責任

も軽くはない。さらには画面の向こうで好き勝手、無責任に喋りまくるキャスターやタレント達の言葉を目的に鵜呑みしてしまう、現代人の情報に対する無防備な姿勢にも問題があると云わざるを得ない。 テレビドラマやアニメの世界で、いとも簡単に人が殺し殺される。こんな世の中だからこそ、人を傷つけることや迷惑をかけることがどれほどいけないことなのか、さらには、人間はもろいこと生きとし生けるすべての命が如何に尊いのかということを、学校に任せることなく家庭の中でこそしっかりと十分に教え込むことの出来る、そんな家族でありたい。

学校教師の資質低下は、確かに嘆くべき現状にあり、これはこれで重要な社会問題ではあるが、親の無責任ぶりも惨憺たるものがある。もっとも親たちは、まずは自分を厳しく律し、謙虚を心がけ、わが子の立ち居振る舞いに対して、人生を賭してでも責任を負う覚悟を持たねばなるまい。でなければ、未来を託すべき子供たちに、もはや未来などは無い。(堀川 博史)